

昨冬の需給ひっ迫を踏まえた
広域的な需給ひっ迫対応に係る検討課題について
(従来の予備率とkWhの管理指標について)

2021年7月1日

調整力及び需給バランス評価等に関する委員会 事務局

- 昨冬の需給ひっ迫を踏まえた検討として、防止・実行・準備の観点から検討課題を整理していたところ。
- 前回、委員会において、具体的な検討項目として大きく3項目を整理し、ご議論いただいたところ。
- 今回、Aの項目について、検討の方向性をお示しし、ご議論いただきたい。

本検討での課題整理

4

- スライド2の実行の検討課題について、具体的な検討項目としてA～Cの3項目を整理した。次ページ以降に、各検討項目の具体的な課題と検討の方向性を整理したため、ご議論いただきたい。

A. 広域予備率・でんき予報の算定方法

- ・kWh不足の予備率への反映方法（燃料在庫不足によるひっ迫状況を示唆できるか）

B. 円滑な電力融通の実施に向けたルール化

- ・国の整理を踏まえ、燃料制約解除の判断内容と燃料制約を外した火力予備を前提とした送受電可能量を算定するルールの検討（燃料制約をいつ、どの程度解除し、どう扱うか（市場投入するか））

C. 需給ひっ迫時の政府の節電要請等に関するフローの整理

- ・追加供給力対策の実施項目と実施判断基準の整理（自家発電増し、需要側対策などの整理）

出所) 第61回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会(2021年5月26日)資料3

https://www.occto.or.jp/iinkai/chouseiryoku/2021/files/chousei_61_03.pdf

論点（A.広域予備率・でんき予報の算定方法）

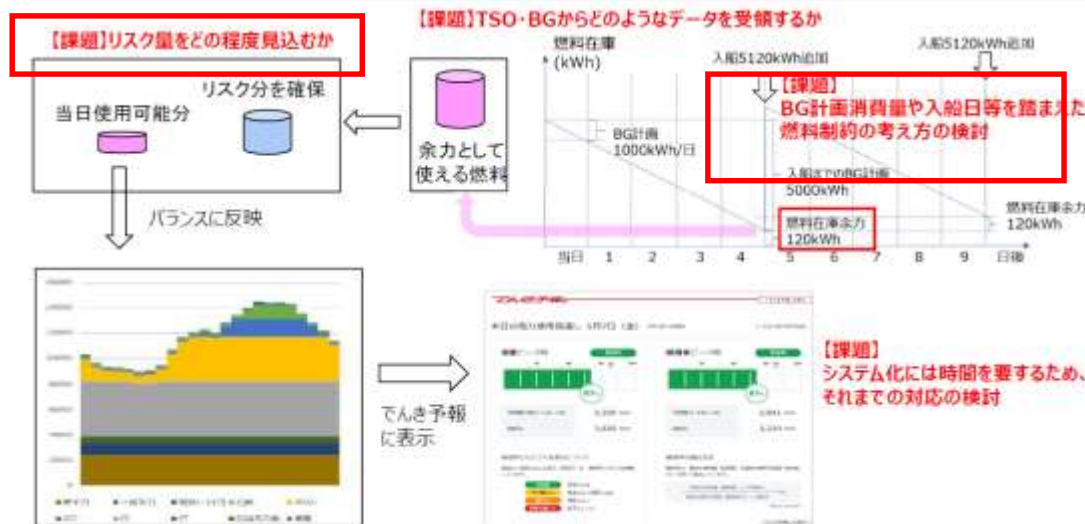
- BG計画消費量や入船日等を踏まえた燃料制約の考え方の検討
- リスクをどの程度見込むか

上記課題について、「kW管理とkWh管理の違い」、「kWh管理の基本的な考え方」、「対策の必要量の算定方法」について整理結果を報告するとともに、「リスクの織り込み方」、「管理する指標」について検討したためご議論いただきたい。

A. 広域予備率・でんき予報の算定方法 - 具体的な検討イメージ

6

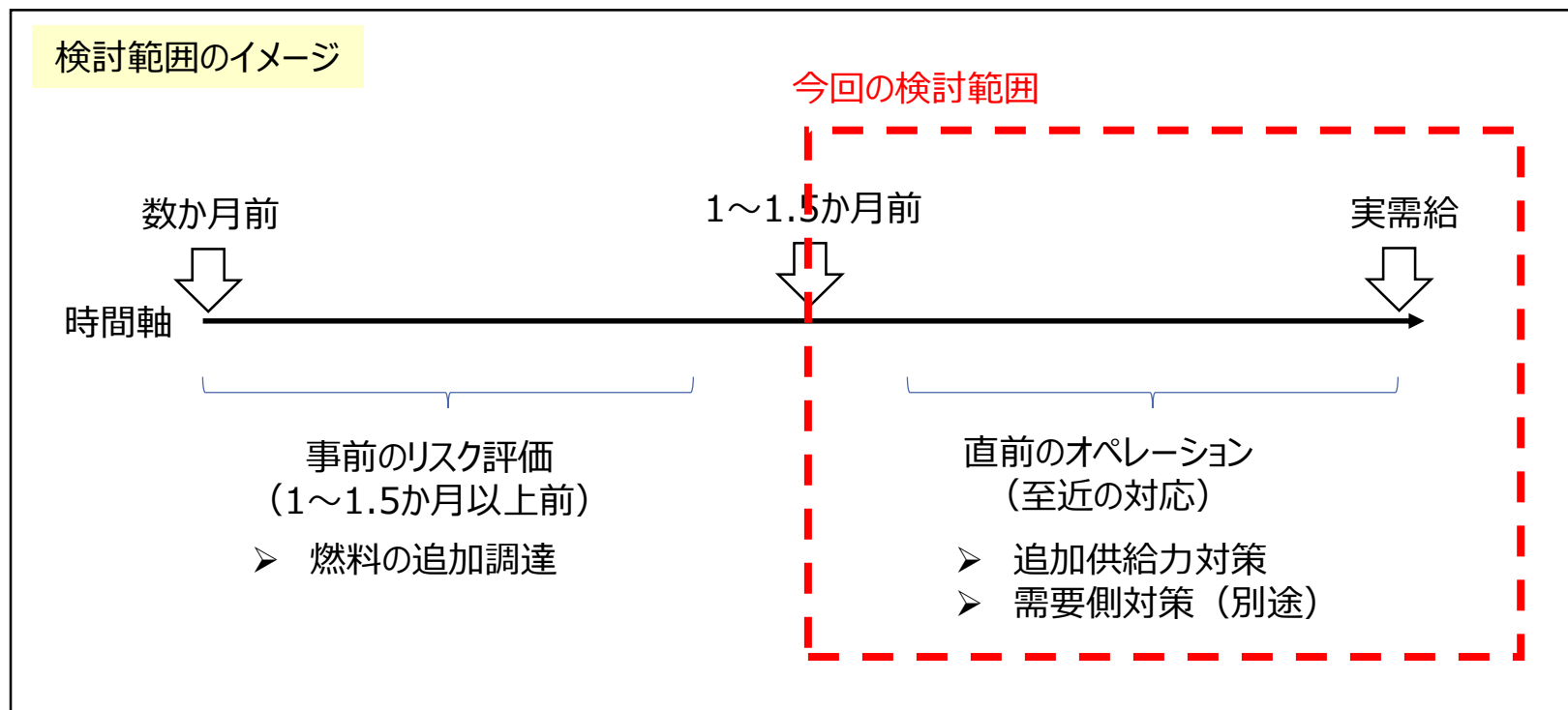
- 火力の燃料制約の考え方をBG計画消費量や入船日等を踏まえ整理し、どのようなデータを事業者から受領すれば燃料制約状況を把握できるか検討する。
- そして、一定程度の不足インバランス発生等のリスクを考慮して、各日の燃料余力(供給余力)をどの程度見込むことで、燃料不足状況を適切に予備率に反映できるかどうか検討していく。



出所) 第61回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会(2021年5月26日)資料3

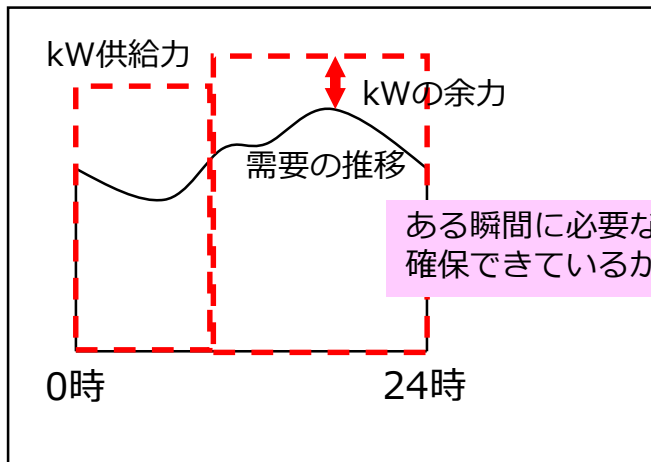
https://www.occto.or.jp/iinkai/chouseiryoku/2021/files/chousei_61_03.pdf

- 燃料の追加調達等の対応は、一定のリードタイムが必要なことなどを想定し、需給検証におけるkW見通しの定期的な更新やkWhモニタリングの実施等、1～1.5か月以上前の対応を検討中。
- 一方で、ひっ迫に直面した場合のオペレーションとして、最後は実需給に向けた追加供給力対策の実施が必要であり、この点について、前回に引き続き、ご議論いただきたい。



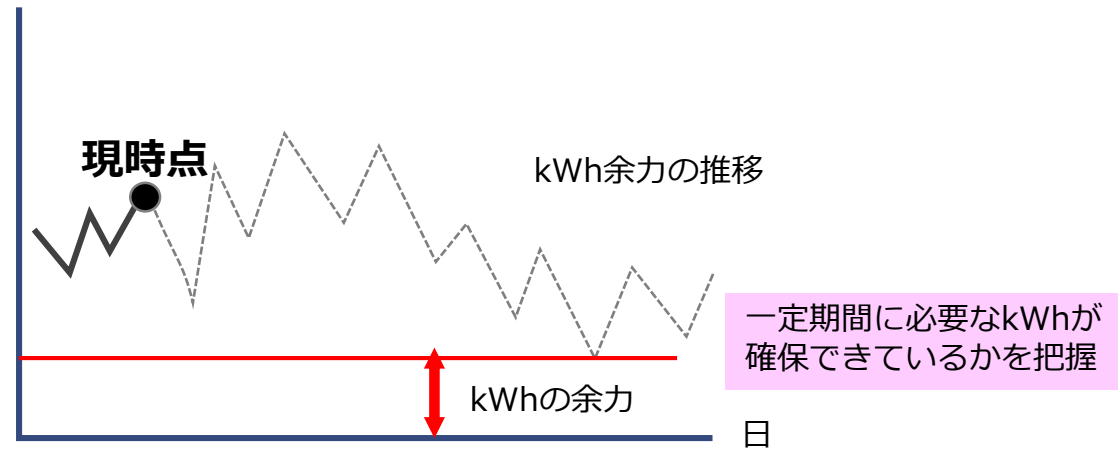
- kWの管理とは、直近の状況（需要実績・気象状況等）から当日や翌日の瞬間的な供給力の余力を把握すること。
- kWhの管理とは、直近の状況（需要実績・気象状況等）も踏まえつつ、kWと異なり、時間の概念が入ることから、一定期間を見通して、持続的な電気の量（kWhの余力）を把握すること。

kWの管理



kWhの管理

kWh余力



■ kWの管理は、大きく2つに分けられる。

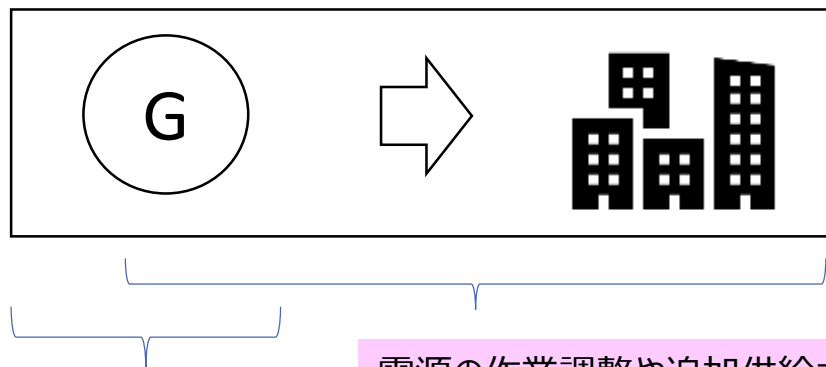
➤ 電源の作業調整によるkW不足への対応を見据えた管理（中長期のkW管理）

電源の作業は一度開始してしまえば、数週間～数か月、並列できないことを踏まえ、電源の作業計画を元にkW不足を把握し、電源の作業調整を行い、kW不足を回避するための管理。

➤ 追加供給力対策・需要側対策によるkW不足への対応を見据えた管理（短期のkW管理）

直近のkW不足を把握し、電源の作業調整や追加供給力対策・需要側対策によりkW不足を回避するための管理。

■ いずれの管理においても、現状、予備率での管理が行われている。



電源の作業調整によるkW不足への対応を見据えた管理（中長期のkW管理）

電源の作業調整や追加供給力対策・需要側対策によるkW不足への対応を見据えた管理（短期のkW管理）

■ kWhの管理は、大きく2つに分けられる。

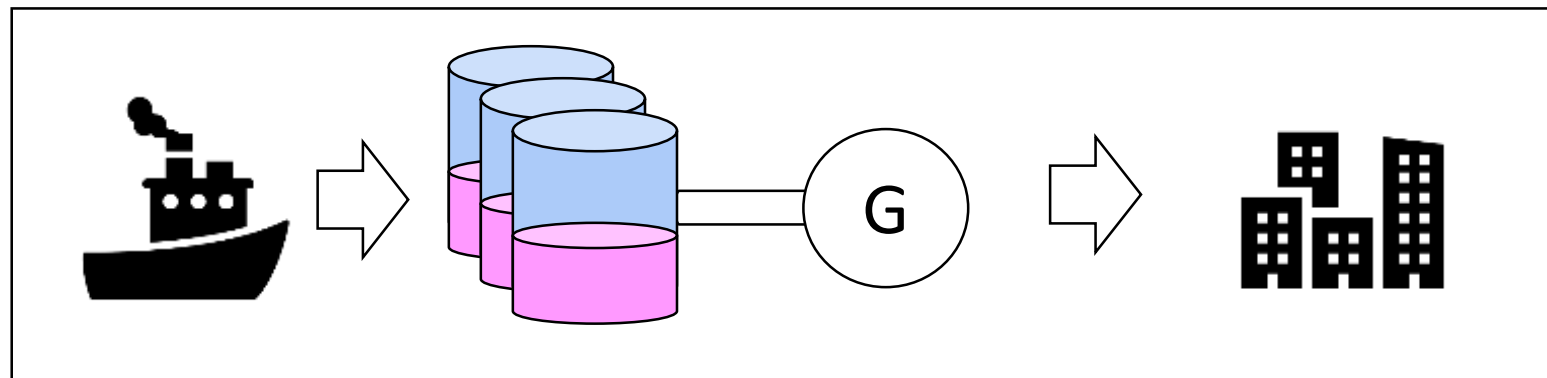
➤ 燃料の追加調達によるkWh不足への対応を見据えた管理（中長期のkWh管理）

燃料の調達には通常1.5か月以上かかることを踏まえ、それ以前にkWh不足を把握し、燃料の追加調達や配船調整による燃料の確保を行い、kWh不足を回避するための管理。

➤ 追加供給力対策・需要側対策によるkWh不足への対応を見据えた管理（短期のkWh管理）

燃料調達が間に合わない段階で、kWh不足を把握し、追加供給力対策・需要側対策によりkWh不足を回避するための管理。

■ いずれの管理においても、どのような指標を設定し、kWh不足を判断するのか決める必要がある。

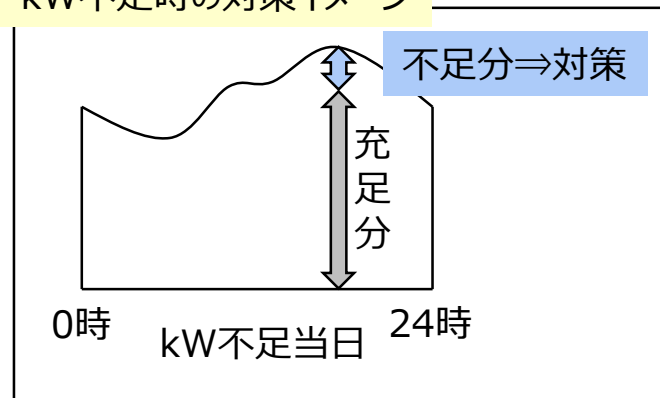


燃料の追加調達によるkWh不足への対応を見据えた管理（中長期のkWh管理）

追加供給力対策・需要側対策によるkWh不足への対応を見据えた管理（短期のkWh管理）

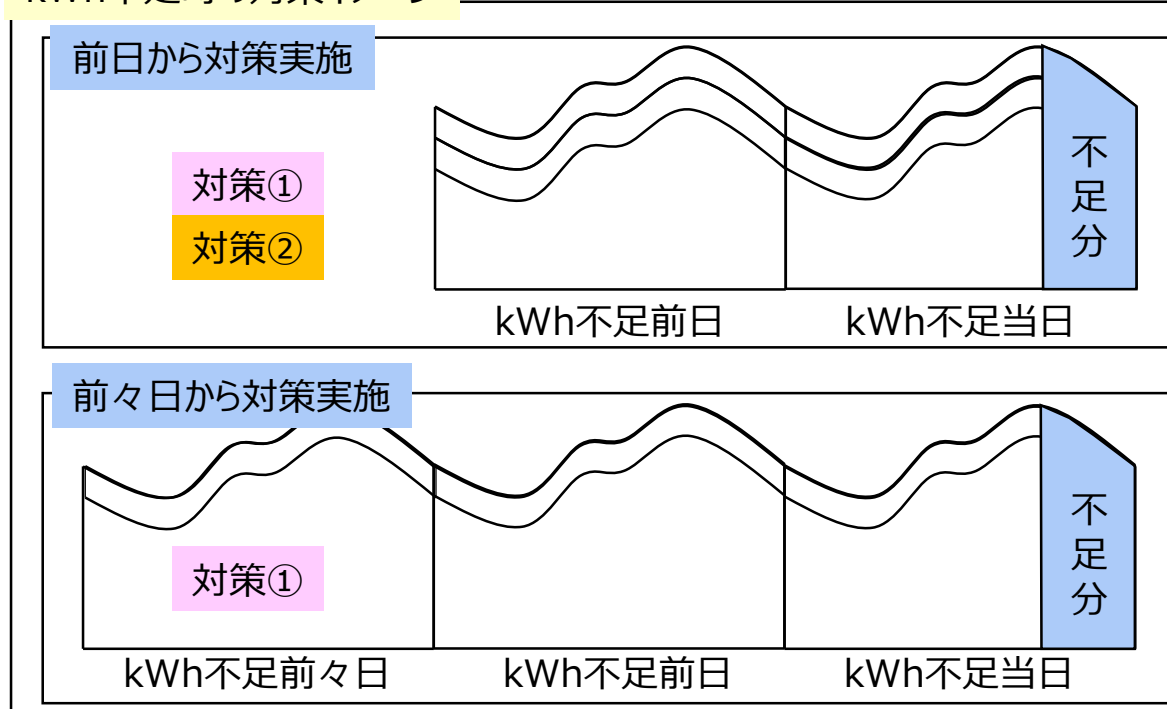
- kWは瞬間的な電気の出力を表しており、kW不足時には追加供給力対策をどの時間帯が本当に不足するのかを見極めて、直前に対策を講じることが効果的である。
- kWhは持続的な電気の量を表しており、kWh不足時には予めkWh不足を見通して、早期に対策を講じることが効果的であるとともに、より社会的影響の大きい、実施順位が後段の対策の回避につながる。

kW不足時の対策イメージ



不足する直前に対策を講じることが効果的。

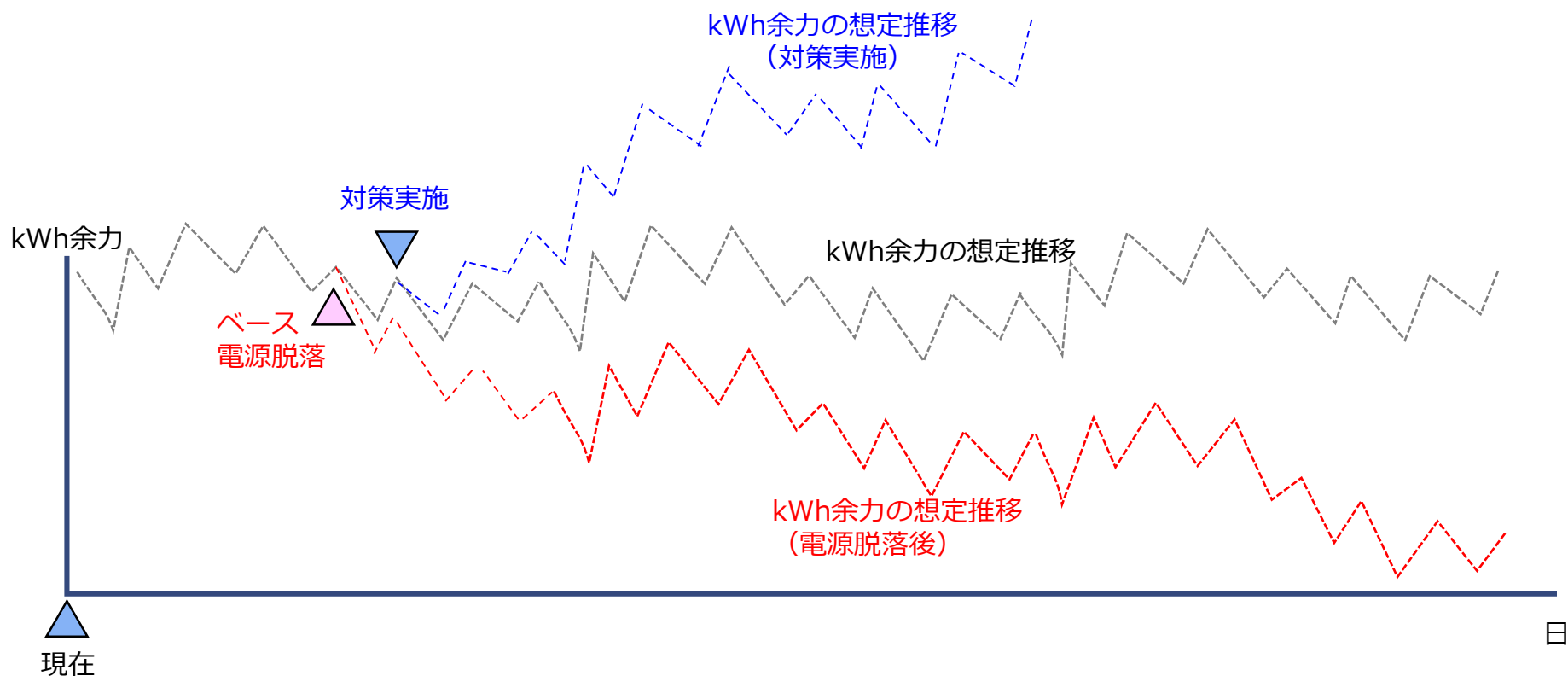
kWh不足時の対策イメージ



早期に対策を講じることが効果的。

(上図は、不足分を補うために、前々日から対策を講じる場合には対策①で対応できるが、前日から対策を講じる場合には対策①②が必要となる例。)

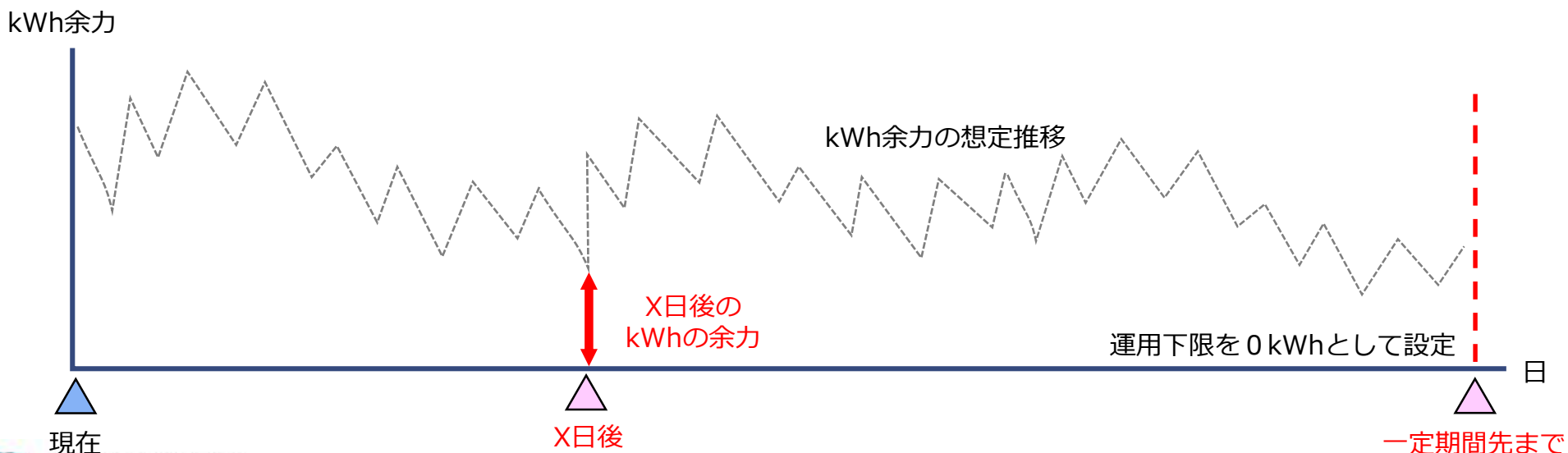
- 電源脱落等のリスクが顕在化した際には、電源脱落が継続することで元の想定推移から徐々に差が広がっていく。
- 対策を実施すると、その継続期間が続くにつれて、徐々に対策効果を発揮し、元の想定推移から徐々に差が広がっていく。



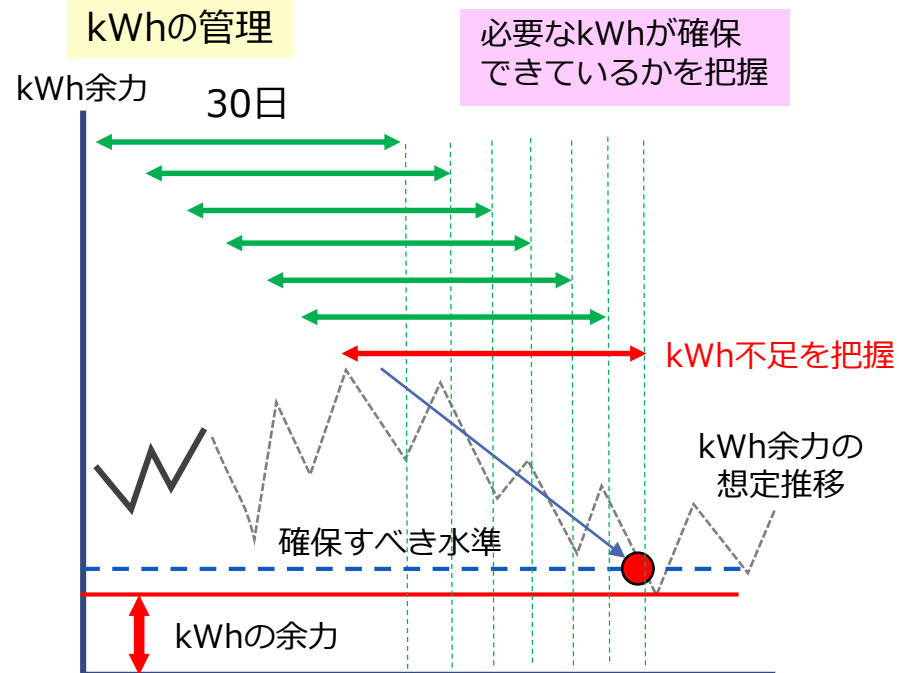
- 基本的には、エリア需要（日電力量）および入船計画を加味した燃料在庫に基づく発電可能量等から、余力となるkWhの推移カーブを作成することで、kWhの余力を把握することができる。
- 推移カーブの作成にあたっての実運用面での課題については、引き続き、詳細な検討が必要。

kWh余力の把握方法（気温想定や計画変更等を定期的に見直し）

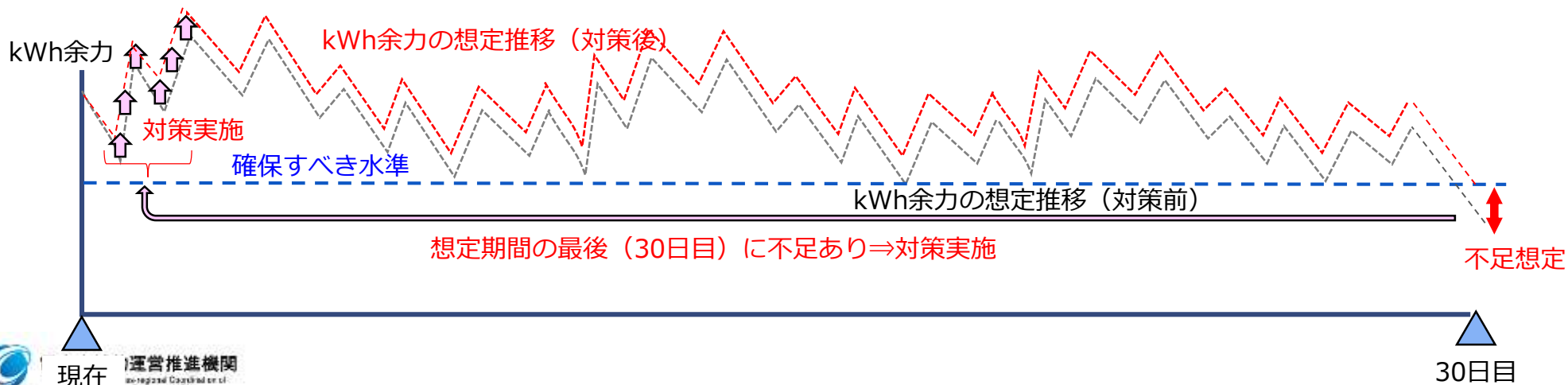
- ① エリアの燃料在庫および入船計画を把握
- ② 燃料在庫・入船計画を日々のkWhに変換
- ③ 一定期間先までの日々のエリア需要（日電力量）を想定
- ④ 一定期間先までのkWhの推移カーブを作成
- ⑤ 一定期間先までの日々のkWh余力を把握



- 一定期間先までを見据え、kWhを管理することで、日々の更新において一定期間先のkWh不足が把握でき、それに対する対策を講じることができる。（図はいずれも一定期間を30日とした例）



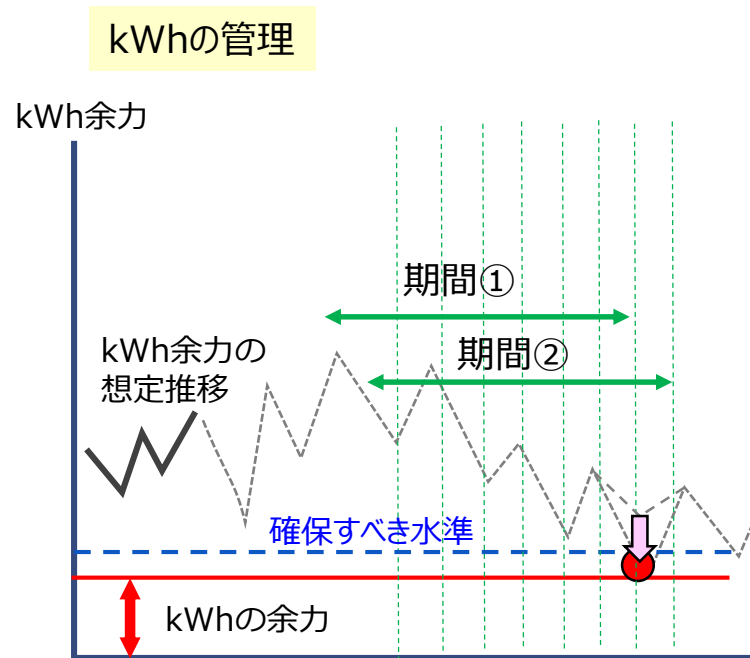
時間の経過に伴い、リスクが把握されるケース



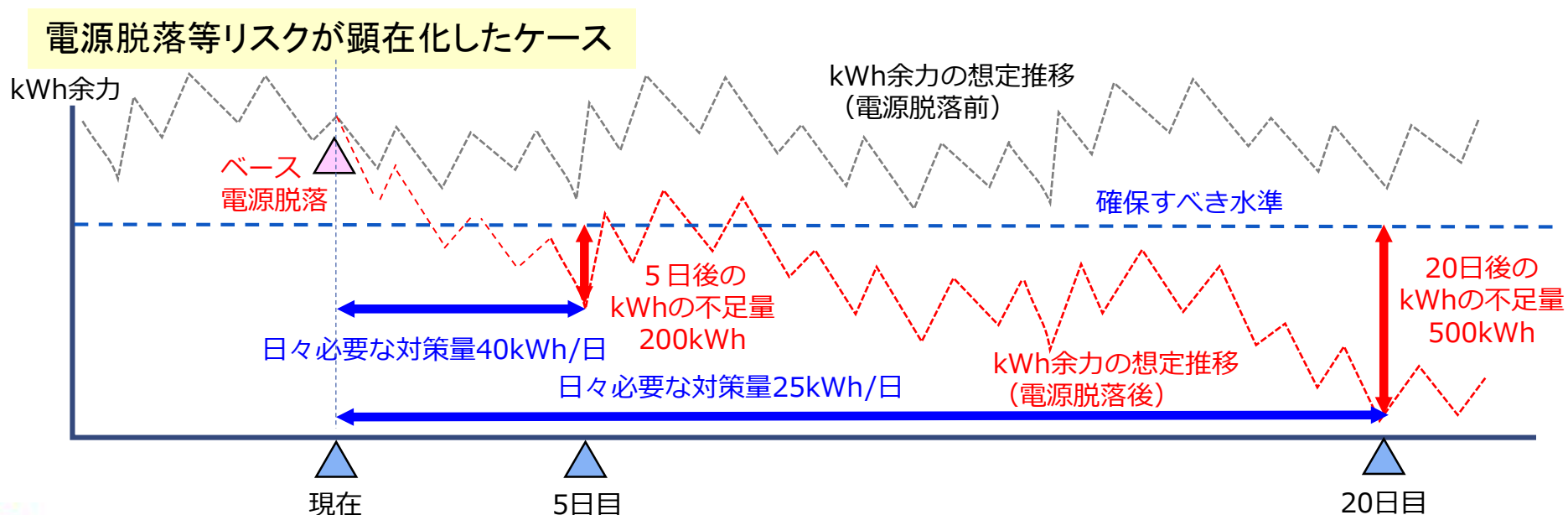
- 期間を決めてkWh不足を把握する際に、
 - ・ 期間①ではkWh不足なし
 - ・ 期間②では急遽、期間内にkWh不足となるタイミングあり

といった状況が生じるおそれがある。

期間②のように、期間内にkWh不足となるタイミングが出た場合には、残りの期間で対応を行う。



- 電源脱落等のリスクが顕在化した際には、急激にカーブが低下し、期間を通じて不足となることがある。
 - kWh不足に対する対策の必要量は、対策の発動期間にも影響を受けることについて考慮が必要。
 - 5日後の200kWhの不足量に対して、日々必要な対策量は40kWh/日
 - 20日後の500kWhの不足量に対して、日々必要な対策量は25kWh/日
- ⇒ 20日後の500kWhの不足より5日後の200kWhの不足の方が日々必要な対策量が多くなり、より対策の緊急性の高い断面と考えられる。
- kWhの不足量を不足が発生するまでの日数で割ることで、日々必要な対策量が算出できる。



- kWh不足に対する追加供給力対策が必要となるタイミングは、それぞれの対策の効果量と発動期間により決まる。
- 電源Ⅰ'の発動に際しては、年回最大12回の制約があり、ひっ迫と判断した際の残り回数によって、総効果量が異なる一方、発動判断から効果が出るまでの期間が短いことから、ひっ迫に近いタイミングで活用することも一案か。

対策順位	対策内容	効果量想定値	元データ
対策1	電源Ⅲ 焚き増し	1,800万kWh/日	2020年度冬季実績想定（スライド●参照）
	自家発電増し	1,400万kWh/日	2020年度冬季実績想定（スライド●参照）
対策2	電源Ⅱ OP運転	248万kWh/日	電源Ⅰ'必要量からのOP控除分
	電源Ⅰ' 発動	1,238万kWh/日	電源Ⅰ' 募集量（最大12回）
対策3	供給電圧調整	1,800万kWh/日	2020年度冬季実績想定（スライド●参照）

残りN回と仮定

対策順位	対策効果	各条件式成立前に対策実施（kWh不足までの日数X日）
対策1	3,200万kWh/日	X日後のkWh不足量 > 3,200万kWh/日×X日
対策2	1,486万kWh/日	【X<Nの場合】 X日後のkWh不足量 > 3,200万kWh/日×X日 + 1,486万kWh/日×X日
		【X>Nの場合】 X日後のkWh不足量 > 3,200万kWh/日×X日 + 1,486万kWh/日×N日
対策3	1,800万kWh/日	【X<Nの場合】 X日後のkWh不足量 > 3,200万kWh/日×X日 + 1,486万kWh/日×X日 + 1,800万kWh/日×X日
		【X>Nの場合】 X日後のkWh不足量 > 3,200万kWh/日×X日 + 1,486万kWh/日×N日 + 1,800万kWh/日×X日

発電事象者・小売電気事業者（非調整電源保有事業者）
に対する焚き増し指示

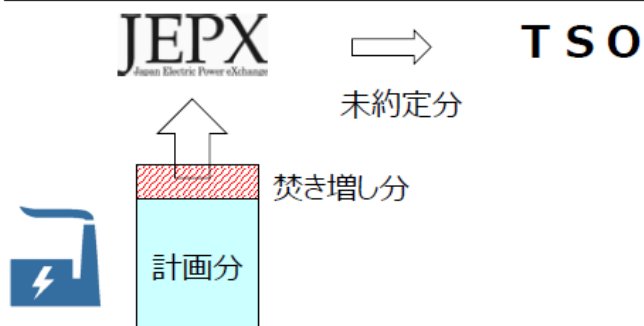
＜効果＞
最大約1,800万kWh/日
の供給力増加(市場供出)

27

- LNGのkWh不足による供給力不足対策として、広域機関より非調整電源を保有する発電事業者及び小売電気事業者に対して、電気事業法第28条の44第一項第5号および業務規程第111条第一項第5号の規定に基づく指示(需給を改善するための指示)を発出した。
- なお、本指示は、市場に売入札することを依頼し、ひっ迫エリアにおいては、未約定分をTSOへ調整力として送電するように指示した。

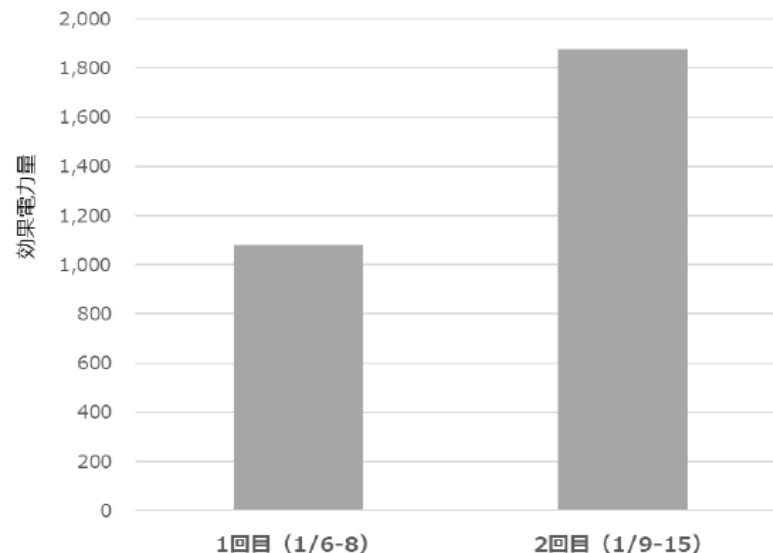
＜発電・小売電気事業者への指示＞

- ・広域機関の業務規程に基づき、発電・小売事業者たる会員に対して、保有する発電設備を連続運転等を要請するもの
- ・JEPX会員は市場への売電を基本とし、JEPX会員以外は所管の一般送配電事業者への売電を指示。



[万kWh]/日

非調整電源効果量



※ひっ迫エリア以外のエリアの非調整電源保有者に対しては、JEPX市場応札を指示しており、ひっ迫エリアの増出力分実績から事務局にて推計。

出所) 第57回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会(2021年2月15日)資料2

https://www.occto.or.jp/iinkai/chouseiryoku/2020/files/chousei_57_02r.pdf

(参考) 一般送配電事業者による自家発電増しのお願い

＜効果＞
最大約1,400万kWh/日
の供給力増加

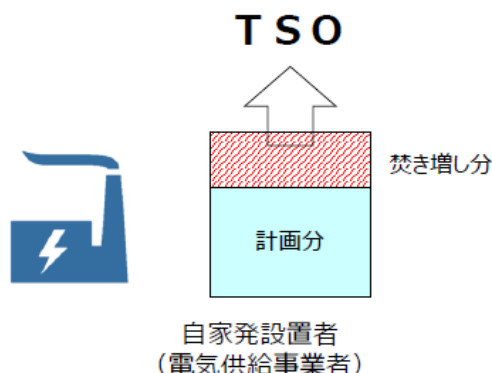
29

- 全ての一般送配電事業者から所管エリアの自家発電事業者に対して、発電余力の焚き増しを要請し、供給力増加により需給バランスを改善した。

＜一般送配電事業者による
自家発電事業者への焚き増しの依頼＞

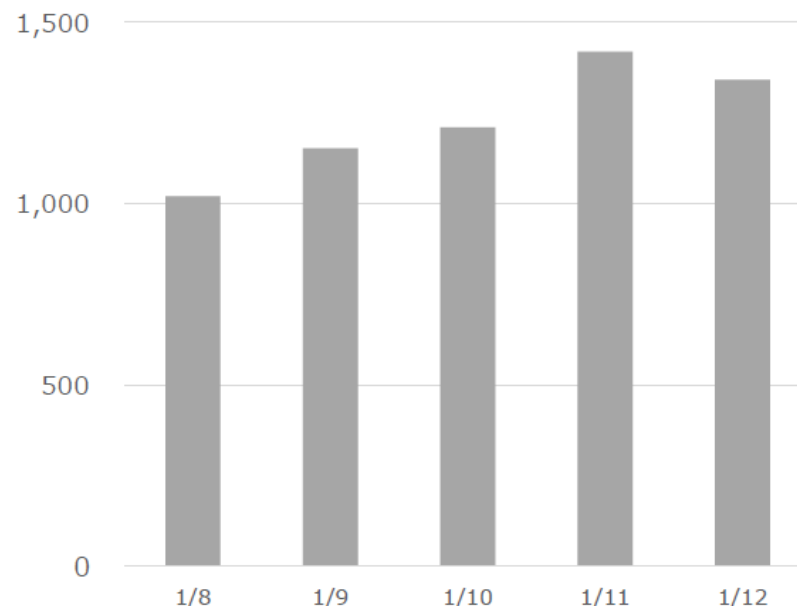
- ・一般送配電事業者から特定自家発電設置者も含む自家発電保有事業者*に対して、供給力を増加させる目的で発電計画以上の出力を上げることを依頼した。

*電気供給事業者（電気事業者、非電気事業者を含む事業者の総称）



※自家発電増し要請は1/6～1/25において実施

[万kWh] 自家発電増しによる増発電力量



出所) 第57回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会(2021年2月15日)資料2

https://www.occto.or.jp/iinkai/chouseiryoku/2020/files/chousei_57_02r.pdf

供給電圧調整の実施依頼

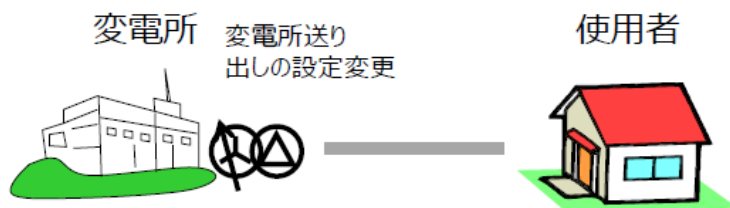
＜効果＞
最大約1,800万kWh/日
の供給力増加

28

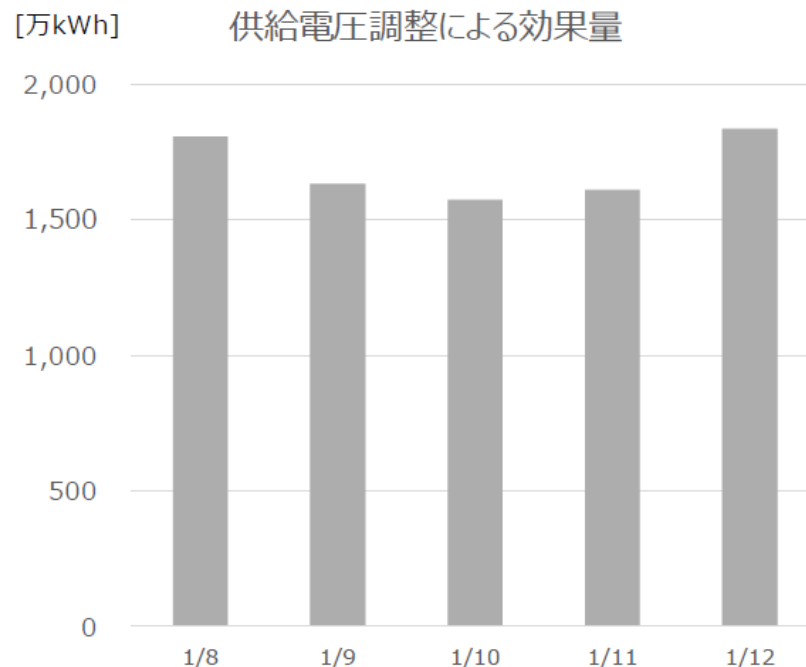
- 今冬の需給ひっ迫が、広域的かつLNG燃料不足によるものであり、また厳寒による需要増はしばらく継続すると考えられたことから、全ての一般送配電事業者に対して、供給電圧調整の実施を依頼し、需給バランスを改善した。

＜一般送配電事業者への供給電圧調整の実施依頼＞

- ・需給ひっ迫時の運用対策として、事前に一般送配電事業者と広域機関で議論してきたことを踏まえ、一般送配電事業者へ実施依頼した。
- 【一般送配電事業者-広域機関で議論してきたこと】
- 供給電圧調整は、需給ひっ迫時の方策として有効であり、停電量を少なくするための手段の一つとすること。
 - 実施時は、変電所送り出し電圧を監視することで法令の範囲内で電気の利用者への影響に配慮。
- 計画停電を回避するための手段であることから一時的に電圧逸脱が発生しても、直ちに電事法における電圧維持義務違反に問われるものではない、という経産省の見解を共有。



供給電圧調整による効果量

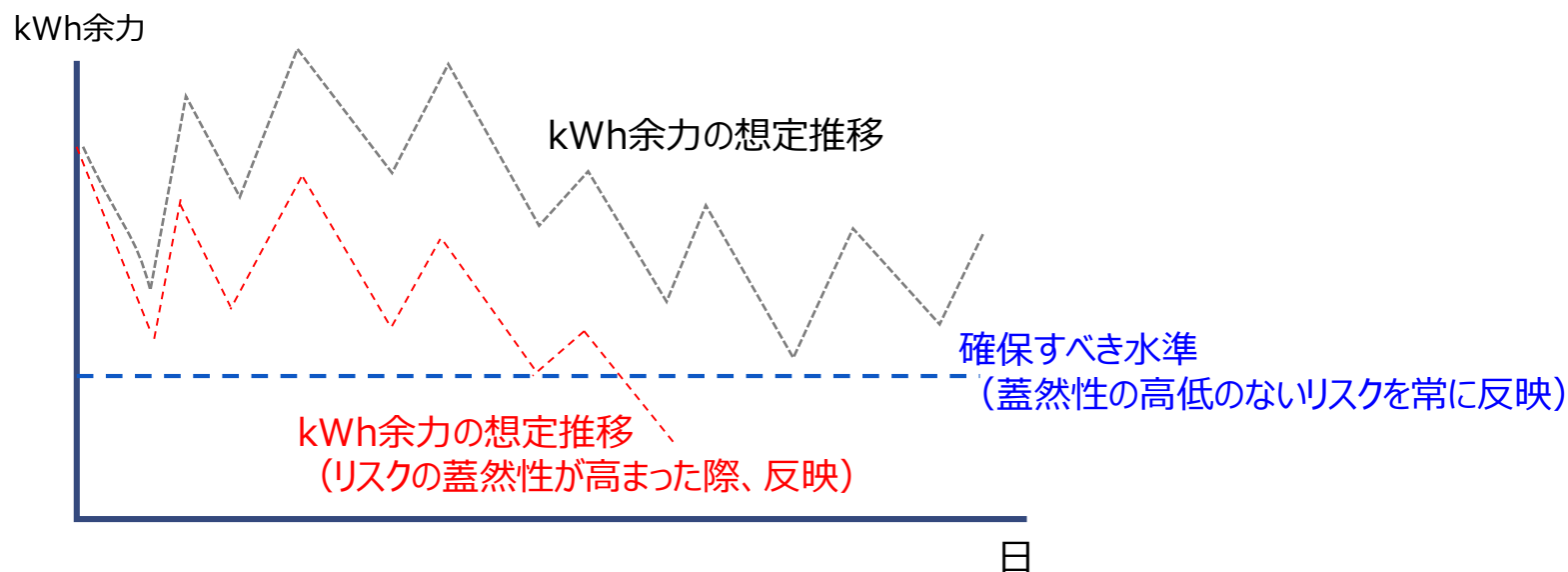


※供給電圧調整要請は1/6～1/22において実施

出所) 第57回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会(2021年2月15日)資料2

https://www.occto.or.jp/iinkai/chouseiryoku/2020/files/chousei_57_02r.pdf

- kWhの管理におけるリスクの織り込み方は管理値に織り込むものとカーブに織り込むものの2つに分かれる。
- 電源脱落のように蓋然性の高低がないリスクについては、確保すべき水準に織り込む一方、気温変動のように蓋然性の高まりのある（想定より暑い・寒い日が続くなど）ものについては、蓋然性の高まりにあわせて、カーブに織り込むことを基本として検討を進めることideいかか。
 - 管理値に織り込むリスク：蓋然性の高低がないもの（電源脱落等）
 - カーブに織り込むリスク：蓋然性の高低があるもの（気温変動等）

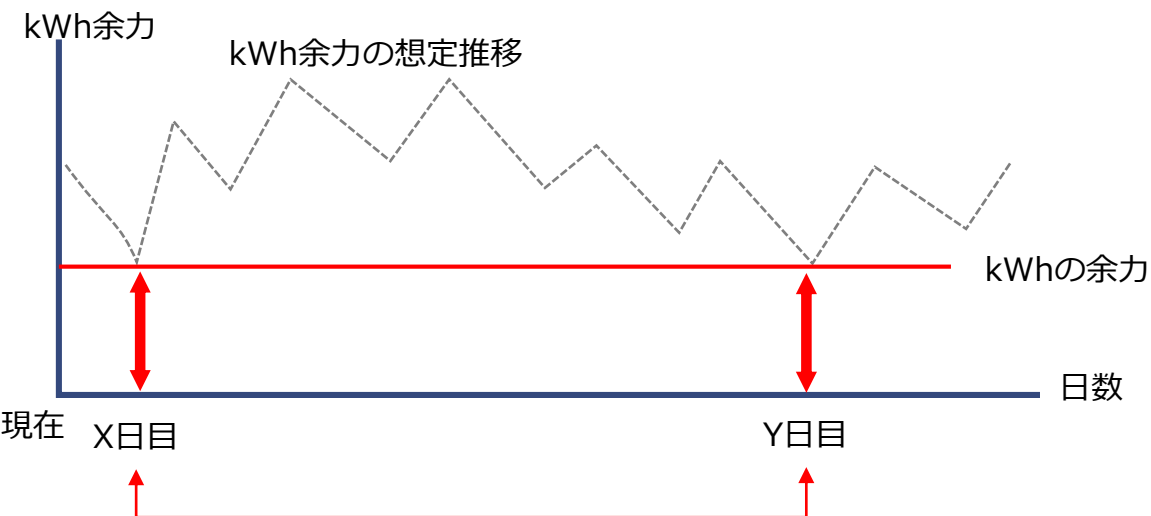


- kWh不足を把握し、必要な対策を講じるためには、kWhの状況进行评估する管理指標を決める必要がある。
- 今回、その管理指標の案として、以下の3案を検討し、次ページ以降に各案の得失を整理した。
 - 案1：kWh余力の想定推移カーブにおける運用下限からのkWh余力を管理指標とする。
 - 案2：kWh余力の想定推移カーブにおける特定日の運用下限からのkWh余力に対して、現在から特定日までの日数で除した数値を管理指標とする。
 - 案3：kWh余力の想定推移カーブにおける一定の期間の運用下限からのkWh余力の最小値を管理指標とする。

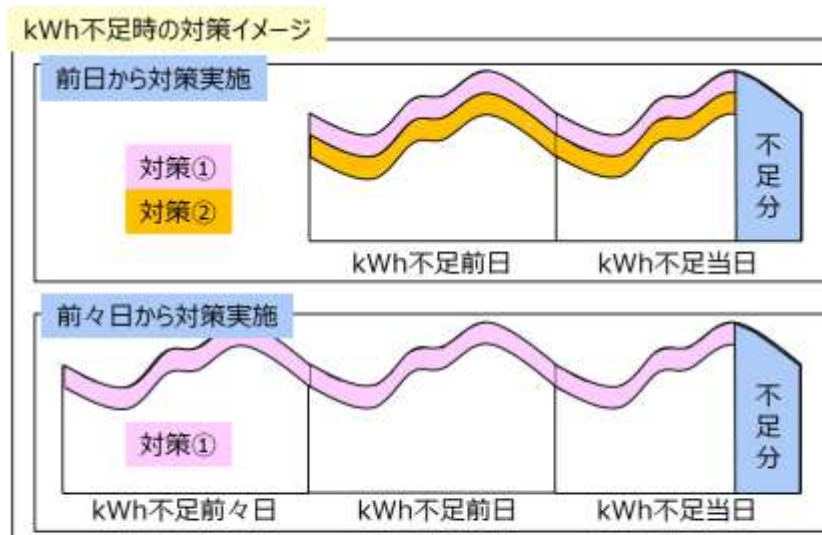
	案1 kWh余力	案2 kWh余力/日数	案3 一定期間のkWh余力の最小値
メリット			
デメリット			

今回、各案の得失を整理

- 案1の「kWh余力の想定推移のカーブにおける運用下限からのkWh余力」については、kWh余力の想定推移カーブから、そのまま指標としての数値を確認できるため、管理指標の数値を容易に確認でき、例えば、左下図のとおりX日目のkWh余力とY日目のkWh余力が、同じ数量となった場合には、そのままの量として管理することとなる。
- 他方で、前述（P13スライド）のとおり、kWh管理においては、kWh不足に対する日々の対策の必要量が、対策の発動期間の影響を受けることから、X日目とY日目のkWh余力が同じ数量であっても、現在から近い未来にあるX日目の方がリスクが高い。それに対して、案1では、現在からの日数によるkWh不足リスクの差異を評価することができない。
- したがって、案1はkWhの管理指標としては、適切ではないと考えられる。

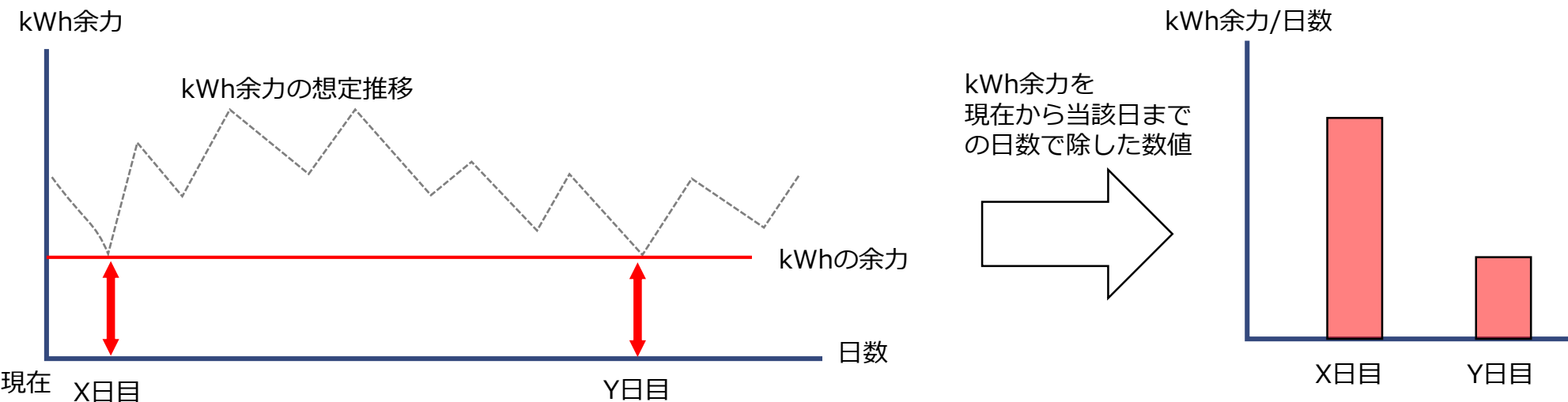


kWh余力が同量であっても、
現在からの対策の発動期間が異なるため、
kWh不足リスクが異なる
→案1はこのリスクの差異を評価できない

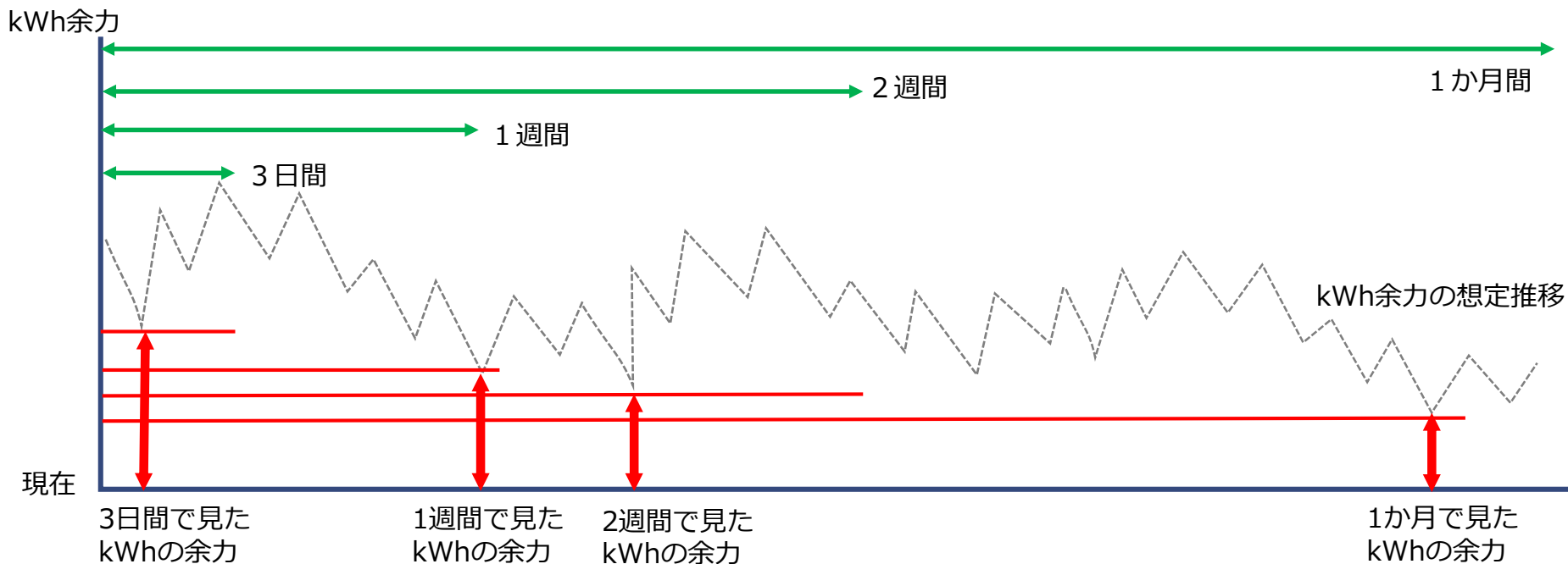


早期に対策を講じることが効果的。
（上図は、不足分を補うために、前々日から対策を講じる場合には対策①で対応できるが、前日から対策を講じる場合には対策①②が必要となる例。）

- 案1の「現在からの日数によるkWh管理の差異を確認することができない」という課題を踏まえ、案2では、日数の概念を取り入れるために、特定日のkWh余力に対して、現在から特定日までの日数で除した数値を管理指標とする考えである。
- この算定方法では、現在から特定日までの日数が長いほど、除する数値（日数）が大きくなるため、管理指標としては小さくなる。したがって、例えば、左下図のとおりX日目のkWh余力とY日目のkWh余力が、同じ数量となった場合には、現在から近い未来にあるX日目の方が管理指標値としては大きな数値となる（kWh余力が大きいという評価となる）。
- 他方で、前述（P11スライド）のとおり、kWh管理においては、kWh不足に対する対策の必要量が、対策の発動期間の影響を受けることから、X日目とY日目のkWh余力が同じ数量であっても、現在から近い未来にあるX日目の方がリスクが高い。それに対して、案2は、Y日目よりもX日目の方が管理指標値が大きく（kWh余力が大きいと評価と）なり、正しい評価結果を得られないこととなる。
- したがって、案2はkWhの管理指標としては、適切ではないと考えられる。



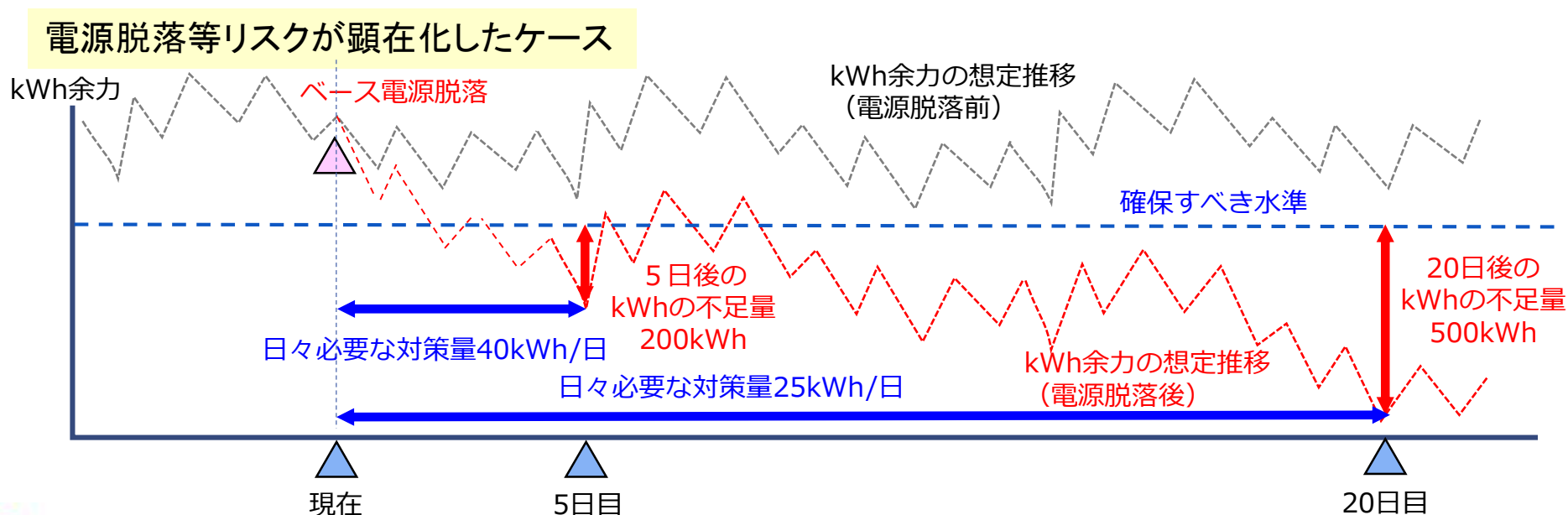
- 案1および案2の整理のとおり、kWh管理においては、現在から当該日までの日数を踏まえたkWh余力を管理することが重要である。したがって、案3の「kWhの想定推移カーブにおける一定の期間の運用下限からのkWh余力の最小値」については、現在から当該日までの日数に応じて、kWh管理を行うこととした。このことにより、kWhの対策の効果量が実施期間に比例することから、現在から当該日までの日数（期間）を踏まえて、一定程度先を見据えた指標とすることができる。
- ただし、案3では、「現在から当該日までの期間」については、例えば、下図のとおり、現在から3日間とするか、1週間とするか、1ヶ月とするかを検討することが必要となる。
- したがって、「現在から当該日までの期間」について詳細に検討することなどにより、案3を基本にkWhの管理指標の検討を進めることとしてはどうか。



- 以上のことから、現在から当該日までの日数（期間）を踏まえたkWh管理を適切に実施することのできる案 3「kWh余力の想定推移カーブにおける一定の期間の運用下限からのkWh余力の最小値」を基本に検討を進めることとしてはどうか。
- 案 3 の検討にあたっては、「現在から当該日までの期間」を管理することとし、「現在から当該日までの期間」をどのような期間とするかなどについて詳細に検討を進めていくこととする。

	案 1 kWh余力	案 2 kWh余力/日数	案 3 一定期間の最小値
メリット	kWhの想定推移カーブから、そのまま指標としての数値を確認することができるため、管理指標の数値を容易に確認することができる	日数の概念を取り入れた指標となる	設定した一定期間に対して、kWh不足の管理をすることができる
デメリット	X日目の余力とY日目の余力が、kWhが等しければ、同じ量として管理されてしまい、日数によって必要な対策が異なる点を評価できない	日数が長いほど、日々に割り振られる余力は小さくなってしまい、同じ余力でも、日数が長いほど、対策の効果が得られ、余裕がある点を評価できない	「現在から当該日までの期間」などについて詳細に検討することが必要である

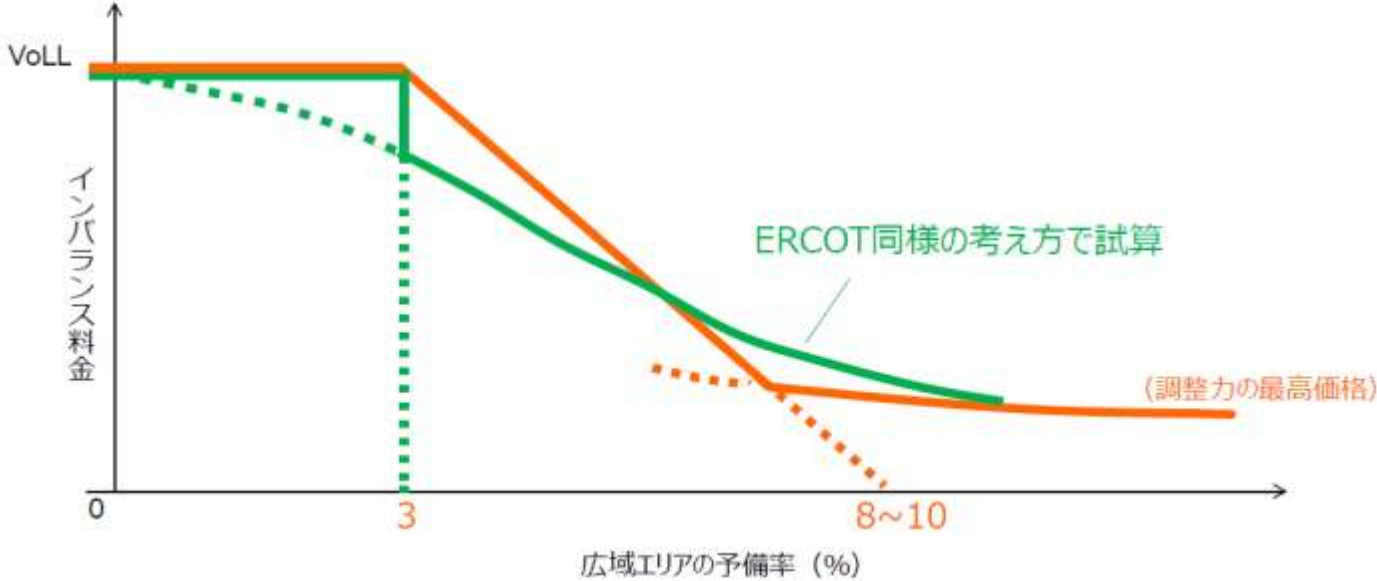
- 管理指標のその他の案として、P13スライドで示した、「kWhの不足量を不足が発生するまでの日数で除することで求められる、日々必要な対策量を示す値」を指標とすることについて検討を行った。
- 上記の数値は「確保すべき水準」に戻すための対策量としての管理値であり、実需給（またはGC）までに対策は必ず実施することとなることから、実需給（またはGC）時点のkWh余力の仕上がりはすべて「確保すべき水準」を満足する数値となる。
- 他方で、「確保すべき水準」は停電リスク・停電コストと相関があると考えられ、追加対策実施内容（追加対策コスト）と整合をとるべきものであり、「確保すべき水準」を固定化する本管理指標は、経済合理性の観点から望ましくないと考えられる。



■「確保すべき水準」(停電コスト)と「需給ひっ迫対策」(対策コスト)は経済合理性の観点から、一定程度整合させる必要がある。

需給対策から考えたインバランス料金カーブ案

65

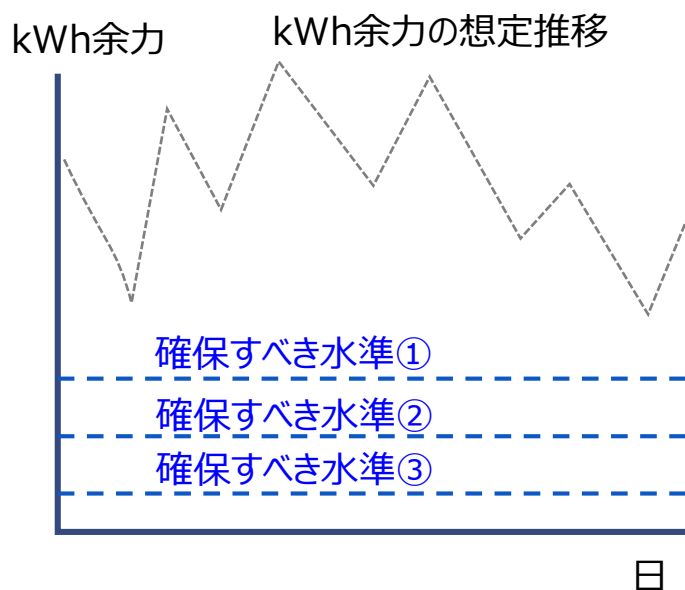


※需給検証の計画停電準備は供給力対策をやりつくした上で広域予備率3% (H1)

※ひっ迫融通実施時の広域予備率実績 5.8~9.9% (電源Ⅰ'発動後)

- 前述の通り、一定期間のkWh余力の最小値を把握し、指標として扱うことが考えられる。
- これをどのような形で表示し、kWhの状況を示唆し、メッセージを伝えられるかが重要。
- 指標の見せ方としては、「案①：当該数値をそのまま表示」「案②：当該数値を日数で割る」「案③：一定期間の日電力量に対する比率で表示」といった方法が考えられ、kWの予備力・予備率があるように、kWh管理を絶対量とするか割合とするかといった2通りの表現方法がある。
 - 案①：当該数値をそのまま表示（例）3,000万kWh
 - 案②：当該数値を日数で割る（例）1,000万kWh/日
 - 案③：日電力量に対する比率で表示（例）1.0%（案①×日数を、その期間の合計日電力量で割る）
- どのような内容で表示するか、絶対量と割合のどちらで管理すべきかについては、昨冬の需給ひっ迫時の実績データを整理した上で、実運用上の課題も考慮し、決めることとしてはどうか。

- kW不足の対策において、その対策の社会的影響や対策実施の困難さなどにあわせて、複数の確保すべき水準（対策の実施判断をする予備率）が設定されている。
- kWh不足の対策においても、同様に、複数の確保すべき水準を設定すべきか。
- 具体的に昨冬の実績データから検討することとしてはどうか。



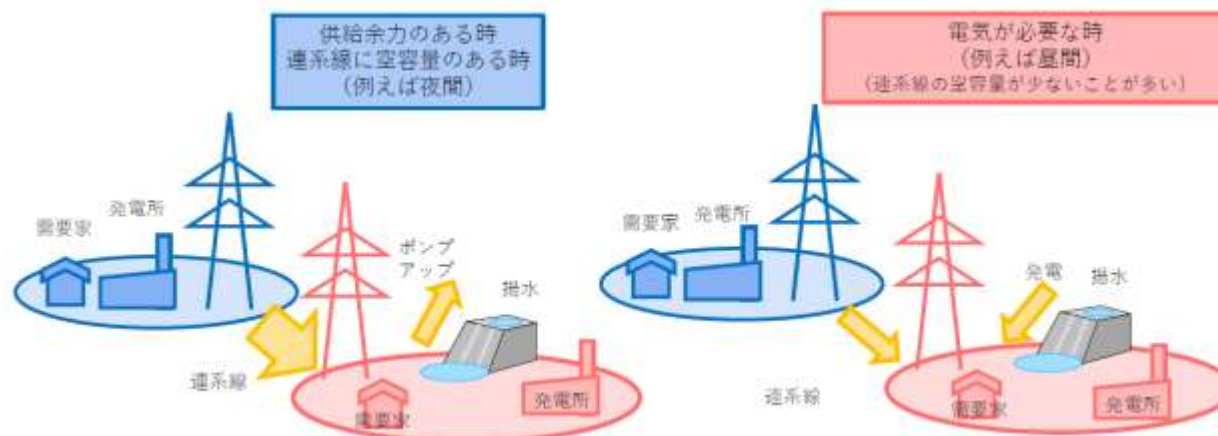
広域予備率 (kW)	予備率の意味する水準	実施する対策（一部検討中）
10%	電源Ⅰ'を発動し始める水準。	➤ 電源Ⅱ OP発動 ➤ 電源Ⅰ'発動
8%	広域機関における需給ひっ迫の基準となる水準。 電源Ⅰ'の発動が確実となる水準。	➤ 自家発電き増し
3%	政府が需給ひっ迫警報を発令する水準。 電力品質を維持するために必要な瞬動予備力を最低限確保できる水準。	➤ 供給電圧調整 ➤ 燃料制約解除
1%	電力品質を維持するために必要な瞬動予備力を確保できていない水準。 計画停電を検討する水準。	➤ 計画停電
0%	瞬間的な変動に対する対応力がない状態。変動の発生に対して電力品質を維持できない。	（広域停電の発生のおそれ）

- 昨冬のkWh逼迫時において、揚水発電は連系線混雑時を避けて不足エリアに不足前に電気を届けるというピークシフト機能として活用されていた。また、kWh逼迫時に揚水発電を積極的に活用することは、揚水動力ロスによりkWh消費が増大することから、極力回避すべきという考え方もある。
- 以上のことから、kWh管理における揚水発電の扱いについて、昨冬の実績データなどを踏まえて検討することとしたい。

今回の融通指示の特徴① ～揚水発電の活用～

21

- 需給のバランスを補う手段として、揚水発電を駆使した融通を行った。
 - 揚水発電：位置エネルギーを利用。あらかじめ水を汲み上げておく必要があり、汲み上げるタイミングが重要。汲み上げるためのエネルギーの見通し＝発電機の余力（火力発電の燃料や他エリアからの融通）の見通しの判断が重要。
- 今回は、需要の相対的に小さい夜間帯に不足エリアに対し融通を行うことで、不足エリアの揚水発電所の水を汲み上げた。これにより、当該エリアの翌日以降の燃料の節約、需要ピーク時の逼迫緩和を目指した。
- また、エリア間の送電は連系線の容量により上限があるが、連系線混雑時を避けて不足エリアに不足前に電気を届けて揚水にエネルギーを貯めることで、エリアを超えた燃料輸送に代わる運用を行った。



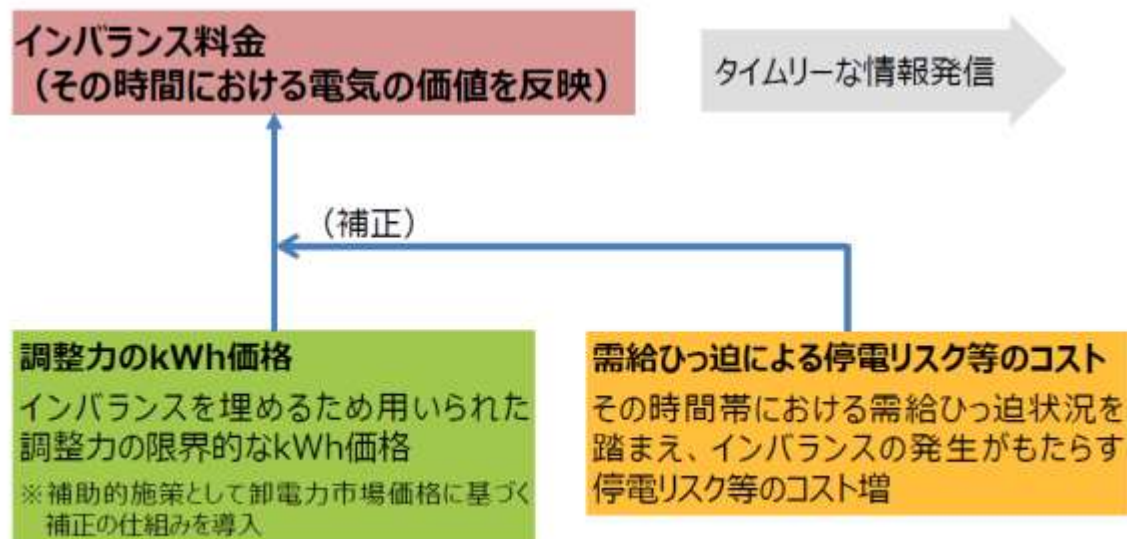
出所) 第57回調整力及び需給バランス評価等に関する委員会(2021年2月15日)資料2

https://www.occto.or.jp/iinkai/chouseiryoku/2020/files/chousei_57_02r.pdf

- kWh不足が生じた際の電気の価値が適切に評価されているかについて、kWhの管理指標とインバランス料金との関係も含めて、整理していくことが必要ではないか。

インバランス料金の考え方

- インバランス料金は、系統利用者への価格シグナルのベースとなるもの。したがって、
 - ① 実需給の電気の価値（電気を供給するコストや需給の状況）が適切にインバランス料金に反映されるようにするとともに、
 - ② その価格や需給状況に関する情報がタイムリーに公表されるようにする。



32

出所) 第37回制度設計専門会合(2019年4月25日)資料4

https://www.emsc.meti.go.jp/activity/emsc_system/pdf/037_04_00.pdf

- 今回、kWhの管理指標の方向性を提案させていただいた。
- 次回以降、kWhの管理に係る今回追加した課題およびA項目の残課題について、検討していく。

	2020	2021年度										課題
	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
A.広域予備率・ でんき予報の算 定方法	kWh不足の予備率への反映方法 ▲ ▲ ▲ 今回 今回方向性提示										➢ BG計画消費量や入船日等を踏まえた燃料制約の考え方の検討 ➢ リスク量をどの程度見込むか ➢ 指標の見せ方 ➢ 確保すべき水準 ➢ 揚水の扱い ➢ インバランス料金の扱い ➢ TSO・BGからどのようなデータを受領するか ➢ システム化には時間を要するため、それまでの対応の検討（でんき予報等関連システム等） 追加	
B.円滑な電力融 通の実施に向け たルール化	国の整理を踏まえ、燃料制約解除の判断内容と燃料制約を外した 火力予備を前提とした送受電可能量を算定するルールの検討 ▲ ▲										➢ 燃料制約解除の際の融通量の設定の考え 方の検討 ➢ 燃料制約を解除したBGは将来的に燃料不 足に陥るリスクが高まるため、解除後のフォ ローについて検討	
C.需給ひっ迫時 の政府の節電要 請等に関するフ ローの整理	追加供給力対策の実施項目と実施判断基準の整理 ▲ ▲ 調整力等委での議論										➢ 需要側対策に移る条件の整理 ・自家発電増しが発動に時間を要するこ ととの整合 ・どのレベルまで燃料を先使いするか検討 ➢ 非ひっ迫エリアにおける対策実施の条件 ➢ 発動ルールの整理 ➢ 市場未約定分の扱い ➢ 焚き増しにあたっては、大気汚染防止法によ る環境規制等への留意が必要	